

# 鹿兒島イーデン電気 展覧会

## EDF、公共事業に展開を

（鹿児島イーデン電気 鹿兒島市のハートピア）  
川崎勝社長は22日、一しまで第2回光触媒研



トライアル発注を踏まえた展覧を話す川崎社長  
＝鹿兒島市のハートピアかこしまで

修会を開いた。代理店関保を交えて、県トライアル発注選定後の展覧を説明するとともに、鹿児島大学の田中啓一理学博士の講義もあった。

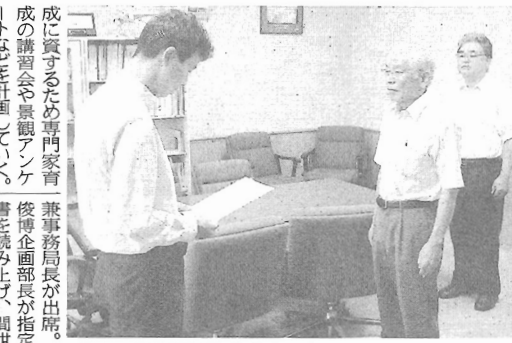
研修会では、初めに川崎社長が「二水電のブレンズを経て、当社のイーデンフラッシュ（EDF）に対する反響が大きい。トライアル発注製品の選定をきっかけとして、代理店の皆様と一緒に公共事業への展開を図ってきたい」と挨拶。さらに、銀系光触媒であるEDFの用途や特徴、ユーザーに安心を提供する細部検査の保証制度、今後の事業展開などを発表した。

また、鹿大理学部生命化学科研究員の田中理学博士が「光触媒による環境浄化」をテーマに講義。

## 来月12日、産業会館

同社は来月から県トライアル発注制度に伴う施工入る。予定施設は県庁舎をはじめ、黎明館、みやまコッセル、整肢園、川内厚生園、霧島自然ふれあいセンター、鹿屋合同庁舎、県立病院（始良・北薩・薩南・鹿屋）でも試験施工を行う。9月12日には鹿児島市の県産業会館で施工見学会・設立記念講演会を開く。

# 県、県造園協を景観整備機構に プロの知識を啓発へ



篠原部長から指定通知書を授与とされる  
間世田会長(中央)＝鹿兒島市の県庁で

成に資するため専門家庭教育の講習会や景観アンケートなどを計画している。鹿兒島市の県庁で開かれた。間世田会長は「景観整備機構は、民間団体や市民による自発的な景観の保全・整備の一層の推進を図る観点から、一定の景観の保全・整備能力を有する公益法人、またはNPO法人を景観行政団体の長が指定し、良好な景観形成を担う主体として位置づける制度。県の指定は県建築士会に引き継ぎたい」と話した。

景観整備機構は、民間団体や市民による自発的な景観の保全・整備の一層の推進を図る観点から、一定の景観の保全・整備能力を有する公益法人、またはNPO法人を景観行政団体の長が指定し、良好な景観形成を担う主体として位置づける制度。県の指定は県建築士会に引き継ぎたい」と話した。

## 出電気工事組合長島ブロックなど

子ども110番の車スタッフ講習 実技や心得学ぶ

不審者への実際の対応などを学ぶほか、出電気工事組合長島ブロックと長島町の住民・事業主でつくる3Aパトロール隊は、鹿児島総合警備保障協の協力で「子ども110番の車スタッフ」養成講習会を開催。自分を守りながら子供を守るための実技や心得等の基本を学んだ。また、同県警察署による「県内・管内の



講習会には町内の小学

## 丸田組と宝満建設

### アユ放流に子供招待

大口市の丸田組（徳田実社長）と宝満建設（同市の羽月川で明徳寺座学の後、「体捌き（相手の攻撃を受けた場合にその危険から逃れる技）」や「離脱（相手に自分の体の一部をつかまれた場合に相手から離れる技）」などの護身術に真剣に取り組んだ）写真。

主催者の牧一真長島ブロック長（備前川石油設備工務）は「参加した先生から、貴重な体験をさせてもらいました。内容・質ともに充実した研修会でした。今後、保護者の参加も広く呼び掛けられてみては、この感想をいただきます。地域の安全・安心のために共に



保育所の子供たちを招き、稚アユ34kg（一万3000匹）の放流を行った。同社が河川工事を行ったことなどから、地域奉仕活動の一環として実施したもので、参加した子供たちは大喜びだった。写真。



## 建設技術者研修会

### 96人が講品確法など学ぶ

各地での施工、見学会の問い合わせは、本社 099-223-173（200994444・69）まで。

「写真」  
研修会は、品確法・総合評価落札方式等・公共工事の品質確保について県土木部技術管理課の吉永謙二技術室長が説明したほか、18年度土木工事の検査結果について県始良・伊佐地域振興局建設総務水支所の辻秀人技術補佐らが説明した。このほか、積算基準の改定についてや施工体制の確保（18年度建設工事における労働災害の発生状況、行政対象率の現状と対策等）などについて丸田組が研修し、受講者は今後の仕事に役立させようと熱心に受講していた。



## 瓜生島建設、鯨島建設、ヨコテ建設

### 河川環境へアユ放流

愛知町の瓜生島建設（島建設（鯨島利男社長、瓜生島正二社長）、柳政（柳ヨコテ建設（横手利和社長）は23日、大口市の川内川で実施したアユ放流した。写真。

今回の放流は、災害復旧等で河川工事を行ったことから河川環境美化放流事業として実施し、当日は3社の関係者、地域住民ら約20人が参加して、これから秋にかけて成長するアユ34kg（約一万3000匹）を関係者の手で次々に放流していった。

関係者は「このように建設業者の方が率先して実施していただきありがたい」と話していた。

参加者40人の子供たちを前に賞状授与（柳ヨコテ建設専務）が、魚の説明や放流時の注意などを説明した後、早速アユの放流を開始した。

ほとんどの子供は、手で触るのが初めてで恐る恐る触っていたが、すぐに慣れ、歓声を上げながら大喜びでバケツに入ったアユを次々と放流していた。

同行した保育所関係者は「このような機会をつくっていただき感謝しています。子供たちも喜び、いい思い出になりました」と話しています。